
冬の空

二葉一葉

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

冬の空

【Nコード】

N4537J

【作者名】

二葉一葉

【あらすじ】

新着メールが届いた。それは嬉しくても返せない、メール。冬でよかった。冷たい風はすぐにはしゃく心を冷めさせるから。

『はやくまたあいてーよ。』

・・・

新着メールを見た直後、あたしは頭のとっぺんからつま先まで、数秒フリーズした。

ハヤクマタア、イテーヨ・・・？

ハヤ、クマ、タア・・・イ・・・テーヨ・・・？

ハヤク、マタ、イテーヨ。

なんとかフリーズから動き出して、あたしは携帯を見つめたまま歩き出す。

その脳内はごちゃごちゃと文章を作っていく。

ちゃんと文章になって、自分が納得できる、文章に作っていく。

早くまたあ、イテエよ。

・・・ってことか？

メールを閉じて携帯をカバンの中にしまい込んだ。

かなり不自然な文章にあたしは無理矢理納得してみる。

たぶん。

たぶん、アイツは昔どっかを怪我して痛めて、それがまた痛くなってるんだろっ。

・・・

『はやく』は、無視。きつと打ち間違え。

早、熊、た・・・あ・・・は、文章にならないし、ね。

うん、じゃ、まあ、お大事にしてください。

冷たい風は頬を冷やす。

乾燥する空気に緩む口元を引き締める。

フリーズは、リバーズになる。

脆くもぼろぼろと崩れいく納得した文章のつえを、あたしはふらふらと歩いて行く。

早く、また、会いてーよ……？

……

何を、言ってるんだか。

「馬鹿。」

ビルの合間から覗くせまい空に眩く。

ちよっとだけ、浸ってみる。

冬の寒さに。

『あたしも』と、返事ができない、寂しさに。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4537j/>

冬の空

2010年12月13日18時24分発行